



Handwritten text on a vertical paper label, likely a title or author's name, written in cursive script. The text is partially obscured by a tear in the paper.

^ 5
1495
1



明利
1495
1

わさび
草

あゝんれを夜にぬ家の板を
 あこゆるい子にまはるるあり
 鼻子付板に白らわいさ
 川子目付板を冬まじり
 あまらわの末を川に未
 さ解のあまらわみ算哉
 遠はつ三たんやんて日北四
 傘の一寸あにれもささる
 らをねらうとててはるる候
 加賀

玉 彦
 各 彦
 迂 甫
 机 取
 曹 取
 五 彦
 一 彦
 呂 孫
 不 存
 佳 三
 呂 孫
 佳 三

あゝんれを夜にぬ家の板を
 あこゆるい子にまはるるあり
 鼻子付板に白らわいさ
 川子目付板を冬まじり
 あまらわの末を川に未
 さ解のあまらわみ算哉
 遠はつ三たんやんて日北四
 傘の一寸あにれもささる
 らをねらうとててはるる候
 加賀

迂 甫
 呂 孫
 不 存
 佳 三
 呂 孫
 不 存
 佳 三

功券や宵くらしく、石はまらまは
何ぞとておぼはたけし、すねの風布
陽歩やまらけく、友を根回さるふ
吟とほる蒼き葉は、はえきま
此花もほんと、終れすまに里

軸

佳成
歌志
不左
呂孫

腹北を暮らさ、ま川さはおもろ月
能はまやちのあやし、るま急い候
くもほくく、蒼きまにまにまに月
併る心鬼も、玉狗の惚惚、師
枯白くらしく、もれもれ、下
美し文の福も、むさく、川
糸友子我を呼也、寸日、氷の左
はつる多た志く、先くも、井く
坂にや、人おし、とる、終れ終

点坐 辻甫 因乎 海幸 二 孫 於 於

發山吹 龍 船 及 川 口 一 り 幸 錢 別

無印
葦海
因平
山角
芽尾
玄青
了侍
歌志

古錢や似く、ある、暮ら、まぬた
飛く、宛を、く、て、か、寸、や、管、井、錢
飛曳て、猫も、ち、ち、も、花、の、ほ、な
い、ま、は、又、子、の、ち、り、た、る、情、子、哉
あ、ゆ、は、女、情、蘇、す、や、岩、間、角、
船く、この、す、く、る、あ、き、を、ま、苔、井、成
い、ま、は、は、乃、た、く、く、ま、く、く、ま、く、く、ま
船、は、や、か、と、お、卵、の、あ、い、ま、ま、と
山、吹、子、之、宿、も、ま、ま、を、罪、按、し
併、く、く、ま、情、妓、ま、く、く、ま、情、井、心
い、ま、は、人、た、く、く、く、く、ま、ま、ま、ま、ま
破、船、を、意、あ、く、て、た、く、日、水、哉
指、く、ま、ま、一、目、も、語、ま、く、て、終、る、象
ま、な、柳、や、茶、と、く、く、く、く、も、龍、さ、く、く
く、く、行、ぬ、や、龍、井、志、く、く、く、く、聖、路、の、寺

可然
原川
風系
楠車
一虎
三角
里梨
佳成
乙丸
一虎
竹子
あふ
村石
師重

おち字はの自候やれは發せし
里丸子り押合し
やるはや條と 雄丸照早
おんたい病
買ふは
冊

遊ハつては跡ものは好別行哉
付ては思ひ成維又た
徳ハはくろく休行を聖山
可くは小玉思ひた
さく心をゆす
まはるは金井種さ
時居さぬ所もつ
送はは袖小
塩捨小
点吉 楠車 丸 庵 風 示 辻 甫 節 令

花好
葦江
讀江
右江
月丸

九口
三浦
呂孫
同系
楠車
反音
其系
野太

更衣 短夜 暮秋 夜山 雨佳 新宅の聲

やうり山は為りし
深き多長者の
用子たつ身
の擗て這入る
深き多長者の
燈臺の果あり
たらし代こ
ん丸あ
雨佳
美し
露る丸
まを
こし
燈臺とわん

晴月
一鹿
葦野
村角
了丸
雪丸
山丸
只丸
三六
九月
同丸
五井
近百

すれら女殿のあしふ糸針のよ
ちみ金のうしろのこたゑのきぬ
あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの

あけの夜越

あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの

あけの夜越
あけの夜越
あけの夜越
あけの夜越
あけの夜越
あけの夜越
あけの夜越
あけの夜越
あけの夜越
あけの夜越

あけの夜越をいよきぬの

あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの
あけの夜越をいよきぬの

あけの夜越
あけの夜越
あけの夜越
あけの夜越
あけの夜越
あけの夜越
あけの夜越
あけの夜越
あけの夜越
あけの夜越

責こるれ居るもつちくそはつ嵐
いさつふをあらてりりこわろい
海山れりてれくや切らるし
ちれそ又まきこきこき新うれ
路けりこ四十張るまろ角力云

軸

浪志、おれ堀とたつたる。厚
ハ歌の松弓遠をたつてりり
如うりちまきこきこきこき
國の通り隔りよつれて下り象
ちんこて居るのにこりいあつち
強うぬのおくがたるりれ月と海と
んちまよるも月よいありり
堀れ堀よまろりまます。洋の琴
はくろりにやいはれてる。昔は昔

虎丈
孝友
近甫
文好
芦花

李興
無六
芦花
ふあ
了角
之野
備八
空を

十六年、く、海花世にや、豊、麻、田、厚、は、丁、北、上、白

深さるるまらちるるるや小堀塔
既ら七言るるるる酒はらる家
河内よきあつちあつちと厚るつ
たつたや名角に向者中力子
ちの角、こきこきこきこき
田井厚や人もわらはるあつち
麻田やんるあつちあつち
たつたや名角に向者中力子
おまらるるあつちあつち
さつたや下まらちあつち
と取らや厚るはらるるる
麻田やんるあつちあつち
おまらるるあつちあつち
こんちまらあつちあつち
ちあつちあつちあつち

家生
芦花
了角
孫芝
麻田
相友
文好
了角
可心
温彦
近甫
子好
林生

子と志くはぬれ共おぼさくあし
あまのつとむのぬきやわし
あまのつとむを細言言し
あまのつとむを細言言し
あまのつとむを細言言し
あまのつとむを細言言し
あまのつとむを細言言し
あまのつとむを細言言し
あまのつとむを細言言し
あまのつとむを細言言し

子 志 共 ぬ れ
あ ま の つ と む の
あ ま の つ と む の
あ ま の つ と む の
あ ま の つ と む の
あ ま の つ と む の
あ ま の つ と む の
あ ま の つ と む の
あ ま の つ と む の
あ ま の つ と む の

あまのつとむを細言言し
あまのつとむを細言言し
あまのつとむを細言言し
あまのつとむを細言言し
あまのつとむを細言言し
あまのつとむを細言言し
あまのつとむを細言言し
あまのつとむを細言言し
あまのつとむを細言言し
あまのつとむを細言言し

二 折
枝 三
一 佳
一 葦
二 哥
一 寛
一 寛
一 寛
一 寛
一 寛
一 寛
一 寛
一 寛
一 寛

漱洗ふ ぼん ぬき 行し 子
手 白く ー さく へ 村
者 居る 子 供 ー の ー
ー ー ー ー ー ー ー ー
ク ー ー ー ー ー ー ー ー
若 ー ー ー ー ー ー ー ー
差 笛 ー 占 ー ー ー ー ー ー
琴 笛 ー ー ー ー ー ー ー ー
轉 ー ー ー ー ー ー ー ー
差 笛 ー ー ー ー ー ー ー ー
干 ー ー ー ー ー ー ー ー
差 笛 ー ー ー ー ー ー ー ー
さ ー ー ー ー ー ー ー ー
差 笛 ー ー ー ー ー ー ー ー
ク ー ー ー ー ー ー ー ー

志 系
文 六
連 之
旦 月
子 命
糸 草
二 系
魚 唇
杉 山
儿 系
成 七
丸 系
九 系
山 系

ク ー ー ー ー ー ー ー ー
差 笛 ー ー ー ー ー ー ー ー
さ ー ー ー ー ー ー ー ー
不 ー ー ー ー ー ー ー ー
さ ー ー ー ー ー ー ー ー
差 笛 ー ー ー ー ー ー ー ー
さ ー ー ー ー ー ー ー ー
月 ー ー ー ー ー ー ー ー
疲 ー ー ー ー ー ー ー ー
傘 ー ー ー ー ー ー ー ー
若 ー ー ー ー ー ー ー ー
差 笛 ー ー ー ー ー ー ー ー
傘 ー ー ー ー ー ー ー ー
は ー ー ー ー ー ー ー ー
る ー ー ー ー ー ー ー ー
引 ー ー ー ー ー ー ー ー

丸 系
九 系
山 系

其

水仙下依のちをねんく
桶波さかむと氷柱れあふん
山草工言れあふん
子系ヤおゆーしりるひさ
さうとーしききーてあつ
おれあふんいんちあは
をか心ア長きよさけ
お仙下利にくしりる
火々入さうさうれ
子系ヤあふん
水心ア長きよさけ
氷柱のあふん
竹のあふん
は細くさうさうさうさう

水 仙 下 依
桶 波 さ か
山 草 工 言
子 系 ヤ お
さ う と ー
お れ あ ふ
か か 心 ア
お 仙 下 利
火 々 入 さ
子 系 ヤ あ
水 心 ア 長
氷 柱 の あ
竹 の あ ふ
は 細 く さ

梅のあふん
竹のあふん
山草のあふん
子系のあふん
さうとーのあふん
おれあふん
をか心のあふん
お仙下のあふん
火々入のあふん
子系ヤのあふん
水心のあふん
氷柱のあふん
竹のあふん
は細くのあふん

梅 竹 山 草
子 系 さ う
お れ か か
火 子 水 氷
竹 は 細

正月乃部、 辻原の歌

まきく池すも酒あり 梅乃之
花の細をつとく 軒下 歌 花
路こころはなつてい 情乃 乃 加
是乃いれなくもる 下古 約 瓶
重舟の口も切く 山 の 二 五
古丹さる言けく 加く 乃 乃 乃
せし梅もを 雪 二 三 三 三 三 三
かこまらさる石れきき 歌 歌
之類の墨守のまをさる 木 乃 乃
正月乃 伊 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
考こなきを ぼん ぼん 乃 乃 乃 乃
玄由乃子ん 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃乃乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃乃乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃乃乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

子

歌

氣 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
毒 六 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
丸 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

蓮

思の情日あさくくく通りな字
 伊のまゝ二年まゝ乃切つ男の左
 防等乃軒くくく下草の七
 郭松尔二序見くやかり心
 行空で施く喘くくくく
 法聲得やあや、類、取、
 山は乃まえくさあそ目眠り
 手毎つらたい、苦らくく
 三味線くくくくくく
 まのりややあきい、ま、は、は、
 ちと乃られ言を、物、や、梅、の、
 狩、の、り、乃、ま、の、三、は、え、ら、ま、れ、苗
 宿、く、類、く、ま、え、く、ゆ、く、ま、乃、下
 志痛で佛乃ワくくく、
 川一序や、く、く、く、く、く、く、く、
 二、三、四、五、六、七、八、九、十、
 十一、十二、十三、十四、十五、十六、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
 十一、十二、十三、十四、十五、十六、

二月九日 聖徳太子

今やこのまゝくくくくくく
 津波くくくくくくくく
 三月で内くくくくくく
 三月や、く、く、く、く、く、
 二、三、四、五、六、七、八、九、十、
 十一、十二、十三、十四、十五、十六、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
 十一、十二、十三、十四、十五、十六、

多限のてらうあれてあは乃花
来うーく自持りして昔れこそ
影こやうるまやまう人の来 成
ふ乃ふもあうるといふはん
空まうや影思まうとえとま
る遠いのかまはつやうま
も 籠乃わまうとほとこらのふ
京の子よこま履ふうすをせん乃
草種を折や小指ふ 阿うう 月
の炯や草ううわうと月相わく
草種や江戸の月相乃氣うう返
いと静や三里はうまうりう余
情の子乃こころうううううた
おれまもまうやあまうとあ
乃乃子のほうまうあう 柜う
ふまうやうけまうううううう
乃乃

る系
鬼山
竹家
ト云
出甫
血交
岩山
名標
一就
二系
系由
言標
系

ゆまをれまうこころまう 昔乃
枯る木よまうこころまう 昔乃
ぬまうまう 軒うまうこころま
まううまうまうまうこころま
登りうのこころまう 甫 情
山らまうまうまうの種ま 昔れ
まのま 昔れまうまうま 昔れ
ままうまうまうま 昔れま
ま
杖まうままうの 藤うま
竹種や折うまうまうま 昔乃
折まうま 擲まうまうま 昔乃
五月ののん 昔れまうま 昔乃
杖種まうま 昔れまうま 昔乃
杖のま 昔れまうま 昔乃
才一ま 昔れまうま 昔乃
あはうま 昔れまうま 昔乃

万系
白生
の昔
言標
系や
信系
多角
月頂
血交
腐木
藤車
の毒
折産
途甫
美水

三河を度々る 陸をかくる 車
世の舟の南へゆく 海を千る舟
る急激る舟をたつ 船をえ外
舟をたつや 舟をたつ 人々あ

おらる

たすいしと 我のふやまは 月夜
舟のふたれこちくそくやま 舟
いさしむこちくそくやま 舟
とつらとつら 舟もあぬれたつ
舟のふたれこちくそくやま 舟

舟のふたれこちくそくやま 舟

は 舟のふたれこちくそくやま 舟

たすいしと 我のふやまは 月夜
舟のふたれこちくそくやま 舟
いさしむこちくそくやま 舟
とつらとつら 舟もあぬれたつ
舟のふたれこちくそくやま 舟
は 舟のふたれこちくそくやま 舟
たすいしと 我のふやまは 月夜
舟のふたれこちくそくやま 舟
いさしむこちくそくやま 舟
とつらとつら 舟もあぬれたつ
舟のふたれこちくそくやま 舟
は 舟のふたれこちくそくやま 舟

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

蘇ヤ坊〜まの〜昔つらら
 け千のねろまきも多〜ヤ扇け
 明けわおるられ夜のりすれあ
 まのらやま〜影まよ明やれま
 四年〜まの〜ヤ〜ま〜
 干廻の風〜〜〜田乃桂
 母なめ〜〜〜
 か〜〜〜
 ぶの〜〜〜
 昔〜〜〜
 ぬ〜〜〜
 ぬの〜〜〜
 舟〜〜〜
 十字の乾〜〜
 ぬおれ〜〜

与文
 新山
 山英
 之聖
 名壽
 加壽
 和井
 里山
 聖美
 美文
 市佳

蘇ヤ坊〜まの〜昔つらら
 け千のねろまきも多〜ヤ扇け
 明けわおるられ夜のりすれあ
 まのらやま〜影まよ明やれま
 四年〜まの〜ヤ〜ま〜
 干廻の風〜〜〜田乃桂
 母なめ〜〜〜
 か〜〜〜
 ぶの〜〜〜
 昔〜〜〜
 ぬ〜〜〜
 ぬの〜〜〜
 舟〜〜〜
 十字の乾〜〜
 ぬおれ〜〜

与文
 新山
 山英
 之聖
 名壽
 加壽
 和井
 里山
 聖美
 美文
 市佳

五
 五

多田とらふもきんもそま乃致
於仙乃ゆふゆきますし白ひふ子
義乃れ世まうくねくトお外
すしうい田のんう月十おうそま
あうふをま毎くく露のままか
あまそまう向くくまうみそま
皆大いさまのゆくくまのま
五ん楊ま出くたり月ま
まままそまままままま
まま入乃破ままりりねまこのま
まままままのままままま
あまままままままま
けままのままままま
ままままままま
術たままままま
術破く嵐の近くまま

術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま

術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま

術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま
術破く嵐の近くまま

